

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(12月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『たいせつなこと』

マーガレット・ワイズ・ブラウン さく /

レナード・ワイズガード え / うちだ ややこ やく

フレーベル館 / 対象：幼児から高齢者



内容のご紹介

12月に入り今年の締めくくりの絵本をご紹介します。アメリカの作家ワイズ・ブラウン作の“たいせつなこと”です。訳は内田也哉子さんです。母親の樹木希林さんは、安心感のある大女優さんで、存在感もあります。

この絵本は、当たり前なのが、すべて大切だと書いています。

物には、役割があって私たちは、当たり前の役割を感じ取ることができなくなってしまうと、感受性や感謝の心を失ってしまいます。

社会は、時代と共に変化して行きますから、変化に流されないように、自分の生き方をしっかり考えることが大切です。

私もこの一冊に出会ったことに感謝します。

生きていく上で大切なことはなにかを教えてください。児童文学作家ワイズ・ブラウンと画家ワイズガードによる詩の絵本です。

戦後間もない1949年にアメリカで出版されて以来、世界中で読み継がれている絵本『The Important Book』。シンプルな言葉で綴られた詩の数々が、生きていく上で本当に大切なことを教えてくれる。児童文学作家のマーガレット・ワイズ・ブラウンと、アメリカで最もすぐれた絵本の画家に贈られるコールドコット賞を受賞した画家のレナード・ワイズガードの2人による作品は、日本では半世紀以上もの時を経て出版された。その翻訳を担当したのが文筆家、翻訳家として活動する内田也哉子さんだ。2001年に発行されて以来、62刷りを重ねている。

紹介文／フレーベル館（矢祭もったいない図書）